16th Joint Conference for Fusion Energy

第16回
核融合エネルギー連合講演会

「2030年代発電実証に向けて」

会期：2026年7月23日（木）、24日（金）

会場：北海道大学学術交流会館

展示会募集要項

主催：一般社団法人 日本原子力学会、一般社団法人プラズマ・核融合学会

運営・管理：日刊工業コミュニケーションズ

Sponsored by
Atomic Energy Society of Japan
The Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research

第16回核融合エネルギー連合講演会 企業展示出展のお願い

第16回核融合エネルギー連合講演会現地実行委員会
委員長 橋本 直幸

本講演会は、1995(平成7)年より「核融合エネルギー連合講演会」と名称を改め、核融合エネルギーの研究開発に関する広範な議論を展開し、炉心プラズマ、核融合炉工学および関連科学技術の総合化に向けた理解を深める場として、また核融合エネルギーの位置づけや展望に関する最新情報を社会に発信する役割を果たしてきました。このたび、第16回核融合エネルギー連合講演会を、一般社団法人日本原子力学会と一般社団法人プラズマ・核融合学会との共同主催のもと、関連学協会の協賛および後援を得て、下記の要領で開催いたします。

近年、核融合は地球温暖化対策の一環として次世代エネルギー源として注目され、国家的な取り組みに加え、民間投資による開発が世界規模で活発化しています。こうした世界の趨勢を受け、日本でも核融合に関する初の国家戦略「フュージョンエネルギー・イノベーション戦略」が2023年4 月に策定され、フュージョンエネルギー産業協議会(J-Fusion)が2024年3月に設立されました。さらに2025年6月には戦略が改定され、今後10年を見据えた国家戦略として「世界に先駆けた2030年代の発電実証を目指す」ことが掲げられ、フュージョンエネルギーの産業化に向けたビジョンが示されています。

核融合コミュニティは、次世代のクリーンエネルギー源としてのフュージョンエネルギーの早期実用化を使命とし、研究開発を強力に推進しています。ITERではファーストプラズマに向け、新しいベースラインのスケジュールに従い現地整備や機器製作・組立が進展中です。並行して、EUと進める幅広いアプローチ活動では、2023年にファーストプラズマを達成したJT-60SAが、2026年中の実験運転再開を目指し装置改造工事を進めています。核融合中性子源開発では、IFMIF-DONES計画への正式署名など、原型炉に向けた準備が進んでいます。レーザーフュージョン方式では、米国での歴史的成果や国内における爆縮・高速加熱研究の進展を受けて、国内の大型レーザーの高度化が進み、フュージョンエネルギーに不可欠な燃焼科学を深化させる学術研究が本格的に開始されました。世界初の大型超伝導ヘリカル装置であるLHD計画が完遂し、ポストLHD計画を含むフュージョンの学際的展開と人材育成の中核拠点となるフュージョンサイエンスヒルズ構想が歩を進めています。さらに、核融合開発への補正予算措置や、経済産業省資源エネルギー庁によるフュージョンエネルギー室の設置など、体制強化が進んでいます。一方、民間投資の活発化に伴い、ベンチャー企業による要素技術の社会実証や2030年代発電実証に向けた取り組みも加速しています。

翻って、核融合コミュニティは、次世代のクリーンエネルギー源としてのフュージョンエネルギーの早期実用化を使命とし、研究開発を強力に推進しています。ITERではファーストプラズマに向け、新しいベースラインのスケジュールに従い、現地整備や機器製作・組立が進展中です。並行して、EUと進める幅広いアプローチ活動では、2023年にファーストプラズマを達成したJT-60SAが、2026年末の再稼働を目指し改造工事を進めています。核融合中性子源開発では、IFMIF-DONES計画への正式署名など、原型炉に向けた準備が進んでいます。さらに、基盤整備事業への補正予算措置や、経済産業省資源エネルギー庁によるフュージョンエネルギー室の設置など、体制強化が進んでいます。一方、民間投資の活発化に伴い、ベンチャー企業による要素技術の社会実証や30年代発電実証に向けた取り組みも加速しています。

本講演会は、企業連携活動として会場に企業展示ブースを設けるとともに、学生も含めた若手研究者との人的交流のイベントとして企業説明会も企画しております。このイベントは、核融合エネルギー研究開発に関する社会への説明と理解・信頼の醸成に向けた絶好の機会です。多くの企業様に参加頂ければ、学生のキャリア意識も高まり、双方にとって非常に有意義な交流会となろうかと存じます。是非、貴社にこのイベントに参加頂き、人財と技術のアピールの場としてご活用頂けますと幸甚です。関係者一同、多くの皆様のご参加を得て、有意義な交流と活発な討論を展開できることを願い、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

組織委員会

委　員　長　谷川博康(QST)日本原子力学会核融合工学部会部会長
副委員長　花田磨砂也(QST)プラズマ・核融合学会会長
　　長坂琢也(NIFS)日本原子力学会核融合工学部会副部会長
幹　事　叶野 翔(QST) 藤岡慎介(阪大) 横山雅之(NIFS)

プログラム委員会

委　員　長　長坂琢也(NIFS)日本原子力学会核融合工学部会副部会長
副委員長　高橋幸司(QST)
　　横山須美(長崎大)
幹　事　福田 誠(QST)時谷政行(NIFS)

現地実行委員会

委　員　長　橋本直幸(北大)
副委員長　岸本弘立(室蘭工大)
幹　事　岡 弘(北大)

展示会募集要項

ポスターセッション会場と同じフロア（仮）で展示会を実施いたします。口頭発表も近くで開催され動線上となるため多くの来場が期待できます。2年に1度となるこの機会をご活用ください。

展示会場 北海道大学学術交流会館

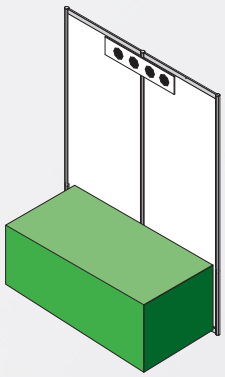
会期 7月23日（木） 9:30～18:30
7月24日（金） 9:30～18:30

出展料金 **150,000円**（税別）／**1小間**

搬入設営 7月22日（水） 15:00～18:00
7月23日（木） 8:30～9:30

撤去搬出 7月24日（金） 18:30～20:00

Standard Exhibition Stand



出展料金に含まれる備品等

展示小間	1小間 （W1980×H2400mm）
社名板	1枚
展示台	1台 （W1800×D600×H700mm）
イス	1脚
電気	PC程度まで可
コンセント	1個（2口）

展示追加オプション（有料）
●スポットライト（1灯）4,500円
●カタログスタンド（1台） 7,500円
●その他（電力追加等はご相談ください。）

Access Map

展示会場：北海道大学学術交流会館1階ホール

展示会募集締切日
2026年 6/19（金）

第15回出展者一覧（2024年@八戸）全28社・団体

（株）アライドマテリアル/ （公財）環境科学技術研究所/ キヤノン電子管デバイス（株）/ 京都フュージョニアリング（株）/ 金属技研（株）/ 新むつ小川原（株）/ 助川電気工業（株）/ （株）セイシンハイテック/ SEMITEC（株）/ （株）高橋製作所/ 帝国イオン（株）/ 東芝エネルギーシステムズ（株）/ （株）東陽テクニカ/ 長尾産業（株）/ （株）永木精機/ 日本ガイシ（株）/ 日本電信電話（株）/ （株）日立製作所/ 古河電気工業（株）/ （株）HelicalFusion/ 三菱重工業（株）/ 三菱電機（株）/ （株）MiRESSO/ 大和合金（株）/ LiSTie（株）/ 量子科学技術研究開発機構（BA）/ 量子科学技術研究開発機構（ITER）/ 六ヶ所村役場

NKCOMS 日刊工業コミュニケーションズ
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-11-2 川商ビル
プラズマ担当 plasma@nikkanad.co.jp TEL.03-5614-3077